

## 新型コロナウイルス感染拡大に伴う いじめ未然防止に向けた道徳科の授業について

※ ここに掲載されております動画は、限定公開としております。

動画のアドレスを、SNS等に投稿しないようお願いいたします。

### ○ 指導における留意点

- ① 悪いと分かっているにもかかわらず同調してしまったり、自己中心的で公正、公平に接することができなかつたりすることは、誰もがもっている人間の弱さです。道徳科の授業では、これらの、人間の弱さにも向き合い、不安や迷いを抱えながらもそれらを乗り越え、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養います。
- ② 学校教育全体を通して、偏見による差別やいじめはいけないうことだと毅然とした指導を充実させていくことは重要です。しかし、道徳科の授業では、道徳的価値についての単なる知的理解に終始したり、行為の仕方を指導したりする時間ではなく、偏見による差別やいじめにかかわる道徳的問題を自分事として見つめ、自分の生き方・在り方についての考えを深めていくことが大切です。
- ③ 学級、学校、地域の実態によっては、道徳科の授業で、本教材を扱うことが適さない場合もあります。各校で実態を踏まえ「公正、公平、社会正義」の内容項目の学習を実施してください。
- ④ 偏見による差別やいじめにかかわる問題は家庭との連携が大切です。本教材を道徳科の授業で活用し、授業後の子どもの振り返りを家庭へ伝えたり、家族と一緒に考えたことを基に授業をしたりするなど、様々な方法で発信し、家庭との連携を推進してください。

### ○ ねらい

新型コロナウイルス感染症にかかわる問題場面に対して、自分との関わりで考え、向き合い、どのようなことが人を傷つけ、偏見による差別やいじめにつながるのか、自分なりの考えをもつことを通して、誰に対しても、公正・公平に接しようとする心情や態度を育てる。

### 1 小学校中学年向け動画

<https://youtu.be/B3S8mhWgXh0>

なお、当動画の内容、テキスト、画像等の無断転載を固く禁じます。また、各種 SNS、web サイト等への引用を厳禁といたします。

### 2 資料

次ページへ

朝のできごと

ぼくのクラスはとても仲がいい、じまんのクラスだ。  
だから毎日学校に行くのが楽しかった。



ある日、お父さんがコロナウイルスにかんせんしたことが分かった。家族はみんな、うつっているかもしれないと言われ、ぼくも、けんさをした。お医者さんに

「コロナウイルスにかんせんしています。」

と言われたときはショックだった。ぼくは、しばらく、家から出ることができなくなった。

ずっと家にいて、ぼくは学校のみんなのことを考えた。

「コロナがうつる。」

なんて言われたらどうしよう。前にみたいに、いっしょに遊んでくれるだろうか。

しばらくして、お医者さんに、

「明日から、どうどうと学校に行っていよいよ。」

と言われたときは、とてもうれしかった。でも、心配になった。



次の日。久しぶりの登校日。ぼくは、ドキドキしながら、教室に入った。

教室は、いつものようににぎやかだった。けれど、ぼくの姿をみると、いっしゅんしゅんかになった。

「おはよう！」

ゆうきを出して A くんに声をかけた。でも A くんは聞こえなかったのかおしをしていってしまった。B さんは、ぼくのすがたをみながら、友だちとひそひそと何か話しているみたいだ。



「やっぱりこなければよかった・・・。」

そう思っていたとき、C くんが近づいてきて

「げんきだった。心配してたんだ。また、いっしょに遊べるね。」

と声をかけてくれた。ぼくはうれしくて、なみだがあふれた。

「ありがとう。」

本当は「おはよう」と言うはずが、ぼくは思わず、「ありがとう」と言ってしまった。教室の中が少し、温かく感じた。

